

世界史B 近現代 42 日中戦争

1,満州事変⇒日本の中国侵略

1904年 日露戦争の「勝利」により、日本はロシアから

┌清国領内の()1()2の租借権

└()3以南の鉄道(旧東清鉄道)と付属の利権 を譲渡される。

06年 日本は┌旅順に「()4都督府」を置き、

└長春以南の鉄道と沿線の炭坑などの経営のため「()5鉄道」設立。

19年 日本は「関東州」(旧満州の南部)に「()6軍」を派遣。

25年 **張作霖爆殺事件**。関東軍が満州内を移動中の張を奉天郊外で爆殺。

31年**9月18日** ()7**事件**❖a

これを中国軍の仕業とし、若槻内閣の不拡大方針を無視して東三省を占領⇒()8**事変**

❖a--関東軍参謀の板垣征四郎、石原完爾らが奉天(瀋陽)郊外で満鉄を爆破。

32年 1月 上海でも戦火⇒()9**事変**(第一次)---日本人僧侶殺傷事件=関東軍の策謀❖b=から

3月「()10」設立宣言。清朝最後の宣統帝溥儀(1906~67)を執政、のちに皇帝。

国連()11**調査団**派遣、9月に報告書。

❖b---日本の上海公使付武官田中隆吉少佐が東京裁判で「自身の謀略」「関東軍板垣征四郎の依頼」と証言。

33年 日本は()12を脱退。34年**ワシントン海軍軍縮条約破棄**を通告。

35年 ()13 五省を分離させ、傀儡政権=**冀東防共自治政府**(~38)設置

36年 **ロンドン軍縮会議**からも脱退。

2,抗日民族統一戦線

35年 8月 中国共産党の()14**宣言**---内戦停止と一致抗日を呼びかけ

36年 5月 上海で全国各界救国連合会結成

11月 **日独防共協定**

12月 ()15**事件**---張学良らが蒋介石を監禁、抗日統一戦線結成を説得。

蒋介石と共産党の()16**恩来**❖c(1898~1976)が会談⇒内戦停止

❖c---江蘇省の地主出身。1917年日本に留学し明治大学に通う。20年パリに留学、中国共産党支部を組織。1949年中華人民共和国建国時から76年まで国務院総理=首相。1972年**日中共同声明**。

3,日中全面戦争

37年 **7月7日 蘆溝橋事件**--()17郊外で日中両軍が交戦。四日後現地は停戦する。

11日 近衛内閣は華北への派兵決定。「北支**事変**❖d」と称する。

⇒全面的な()18**戦争**(1937~45)へ。9月、「**日華事変**」と改称。

❖d--「事変」は1935年アメリカ「中立法」で戦争・内乱状態の国への石油、武器の輸出を禁止したことへの対応。

8月13日 **第二次**()19**事変**--日中両軍が衝突。

発端は8月9日の「大山事件」陸戦隊の中尉と運転手が中国保安隊の銃撃で死亡。

上海---各国の共同()20地がある。労働者、学生による抗日運動が盛ん。

日本の海軍陸戦隊4千が駐留。中国軍と交戦。

14日 陸軍第3,9,16の3師団に動員令。「**上海派遣軍**」編成。23日上陸。

15日 台湾と長崎の海軍航空隊が渡洋し、首都()21と飛行場を空襲。

→非武装の首都爆撃は国際的な非難を受ける。

9月 ()22**民族統一戦線**=**第二次国共合作** 成立

┌紅軍を国民革命軍の()23**軍**(華北)、**新四軍**(華中)に改変。ゲリラ戦を展開。

31師団(20~30万人)を投入し、徹底抗戦。

└日本は陸軍6個師団で苦戦。

日本軍→食糧を携行していない。補給も不足⇒中国民衆から**現地調達**・**略奪**

12月13日 日本の「中支那方面軍」(第10軍、第16師団)

┌**首都**()24を占領。中国軍の組織的な抗戦は止む。

└その後2ヶ月にわたり捕虜、一般市民およそ20万人を虐殺。略奪・放火。

⇒**南京大虐殺事件**(下記)

38年 広州、重慶など主要都市を攻略

国民政府は()25❖eを首都に国民革命軍中心に徹底抗戦。

❖e---日本は38年から43年まで200回以上の戦略爆撃、無差別爆撃を行う。重慶爆撃。犠牲者推計1万人。

39年 ()26**事件** 「満州国」との国境線を巡りモンゴル・ソ連軍とハルハ河畔で戦い、敗北。

40年 反蒋介石派の汪兆銘(1883~1941)を首班として南京国民政府をつくらせる。

南京大虐殺事件---**極東国際軍事裁判判決(1948)**から

100万人の住民の半数と外国人--1部を除き12月初め、市外に退避。

中国軍、防衛のための5万人を残し、撤退。

12月12日夜、日本軍南門へ。中国軍5万人も退却。(北門、西門から)

12月13日朝、日本軍入城、抵抗は一切なかった。

証言(抜粋)

1、ウィルソン証人(アメリカ人。南京の大学病院の副外科医長 避難民保護のため「南京国際委員会」設立)

「12月13日日本軍の入城以後数日のうちに男女子供のあらゆる年齢の患者で病院は満員に。多くのものが長江の川岸に連行され銃殺された。15歳の女子、妊娠4カ月の19歳の女性が日本兵に強姦され、病院に連れてこられた。」

2、[]27大使館(漢口)からベルリン外務省への報告(1938・2・16)

「日本軍は13日午前入城。南京国際委員会として22名の欧米人が市内に残る。14日、日本軍の態度一変。略奪、放火、虐殺。市内の40%を焼く。14日間続く。中国民衆は無抵抗。日本軍は青年を連行、(兵士を探す苦勞を避けて)長江沿いで銃殺。少女、夫人を暴行。日本軍は規律を欠如。畜生のような集団。」

3、武藤(中将)調書(当時大佐・中支那方面軍参謀副長)

「南京、マニラの残虐行為は全く名分が立たない。事件後、日本の軍隊教育に何か欠陥があると感じた。日清・日露戦ではこのような残虐行為は日本にはなかった。1915年のシベリア出兵以来、現れてきた。日本人の素質、人格が低下してきた。家庭、学校における教育を改善する必要がある。こういう議論を事件後、非公式に行った。しかしこうした点の改善をすることは何もできなかった。」

認定した事実

市内にいた憲兵はわずか17名。最初の2日間で少なくとも非戦闘員12,000人が死亡。1カ月で約20,000件の強姦事件。

略奪放火で全市の3分の1が破壊される。南京周辺の村々も同じ状態。

降伏した中国兵捕虜30,000人以上が揚子江の岸辺で銃殺される。男子の一般人は機関銃と銃剣で集団で殺害される。

20,000人を下らない。埋葬隊によって埋葬が確認された数は十五万五千人。

一般人と捕虜、計200,000人以上が殺害された。



周恩来



南京攻略中の日本軍



南京に入城する日本軍

・周 ・華北 ・満州 ・関東(2) ・大連 ・西安 ・旅順 ・北京 ・長春 ・南京(2) ・上海(2)
・重慶 ・日中 ・租界 ・八路 ・抗日 ・八・一 ・満州国 ・柳条湖 ・南満州 ・国際連盟
・リットン ・ノモンハン